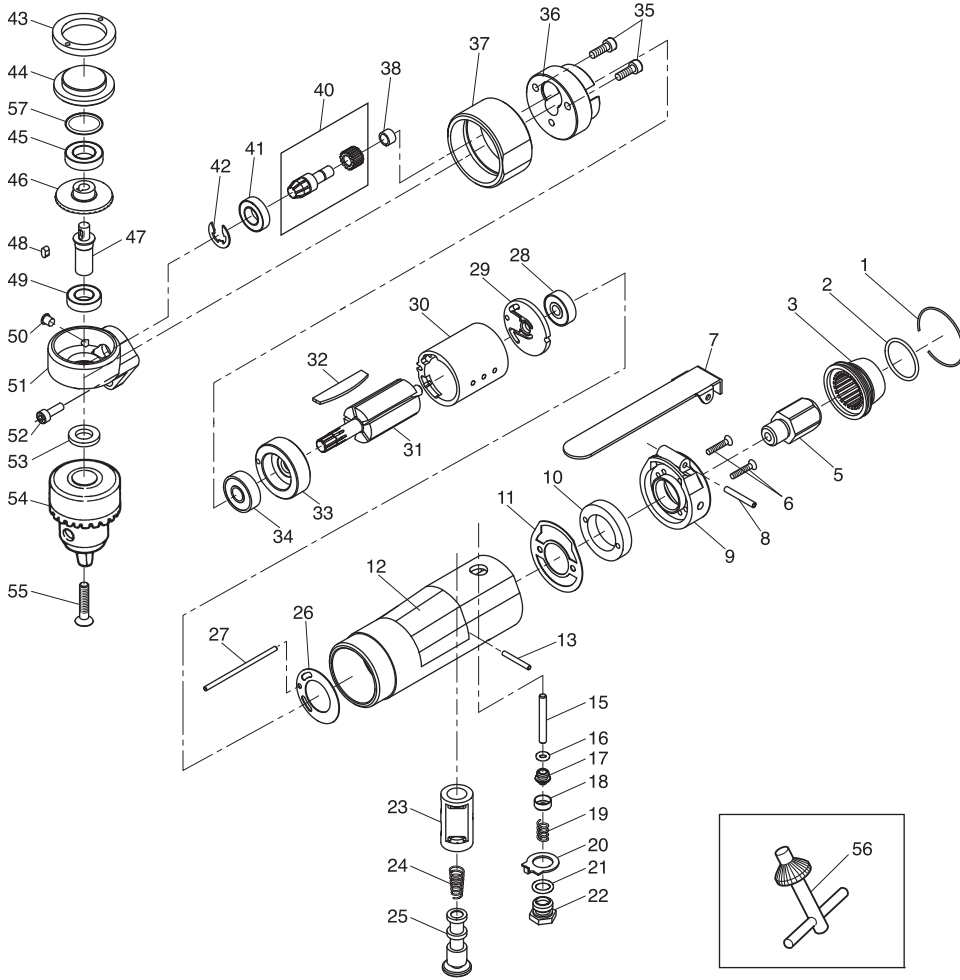


# 部品分解図

## SP-1514AH

### 10mm用低床リバーシブルアングルドリル



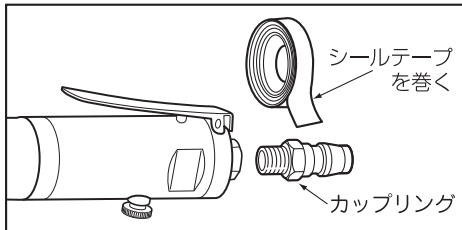
#### パーツリスト

番号	パーツNo.	名称	個数
1	1514AH-01	デフレクターストップリング	1
2	1514AH-02	オーリング	1
3	1514AH-03	デフレクター	1
5	1514AH-05	インレットプッシング	1
6	1514AH-06	スクリュー	2
7	1514AH-07	スロットルレバー	1
8	1514AH-08	スプリングピン	1
9	1514AH-09	ハウジングキャップ	1
10	1514AH-10	マフラー	1
11	1514AH-11	ハウジングガスケット	1
12	1514AH-12	モーターハウジング	1
13	1514AH-13	ロールピン	1
15	1514AH-15	バルブピン	1
16	1514AH-16	オーリング	1
17	1514AH-17	バルブ	1
18	1514AH-18	オーリングリテーナー	1
19	1514AH-19	バルブスプリング	1
20	1514AH-20	リバースリテーナー	1
21	1514AH-21	オーリング	1
22	1514AH-22	バルブスクリュー	1
23	1514AH-23	リバースプッシング	1
24	1514AH-24	リバーススプリング	1
25	1514AH-25	リバースバルブ	1
26	1514AH-26	モーターガスケット	1
27	1514AH-27	モーターピン	1
28	1514AH-28	ボールベアリング	1
29	1514AH-29	リヤエンドプレート	1
30	1514AH-30	シリンダー	1
31	1514AH-31	ローター	1
32	1514AH-32	ローターブレード	5
33	1514AH-33	フロントエンドプレート	1
34	1514AH-34	ボールベアリング	1
35	1514AH-35	Hex.ボルト	2
36	1514AH-36	フランジ	1
37	1514AH-37	ロックリング	1
38	1514AH-38	オイルスプッシュャー	1
40	1514AH-40	ピニオンAssy	1
41	1514AH-41	ボールベアリング	1
42	1514AH-42	E-リング	1
43	1514AH-43	クランプナット	1
44	1514AH-44	ベアリングケース	1
45	1514AH-45	ボールベアリング	1
46	1514AH-46	ギア	1
47	1514AH-47	スピンドル	1
48	1514AH-48	キー	1
49	1514AH-49	ボールベアリング	1
50	1514AH-50	ボール入りカップ	1
51	1514AH-51	アングルハウジング	1
52	1514AH-52	Hex.ボルト	1
53	1514AH-53	チャックスパーサー	1
54	1514AH-54	ドリルチャック	1
55	1514AH-55	チャックスクリュー	1
56	1514AH-56	チャックキー	1
57	1514AH-57	ベアリングガスケット	1

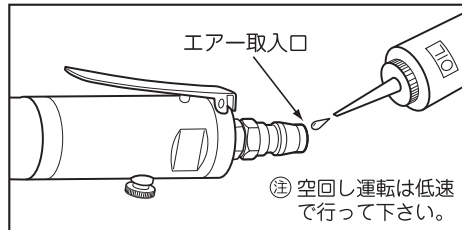
改良のため、仕様を変更する場合があります。

#### ご使用方法 SP-1514AH

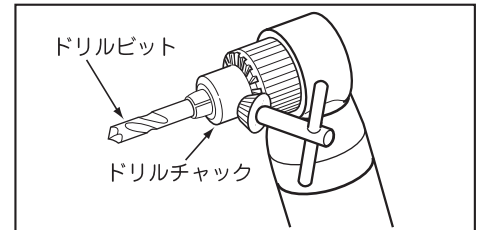
1.カップリングのネジ部にシールテープを巻きつけ、エア漏れのないように、エア取入口にしっかりと取り付けて下さい。



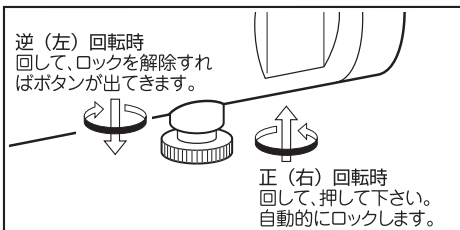
2.作動前にエア取入口より、スピンドル油がタービンオイルを数滴入れて、軽く空回し運転を行い、可動部分に油をなじませて下さい。



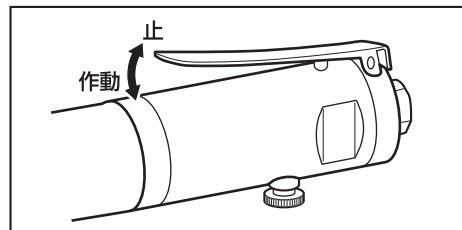
3.給油が終わったら、いったんエアホースを取り外し、ドリルチャックにドリルビットを奥まで差し込み、しっかりと固定して下さい。



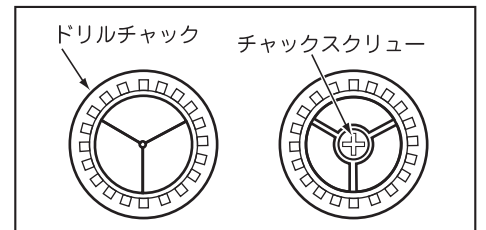
4.このドリルは正逆回転機能付です。ボタンを“押した”状態が正(右)回転です。ボタンが“出た”状態が逆(左)回転です。作業前に必ず確認して下さい。



5.スロットルレバーで回転の調節を行って行って下さい。始めは軽く押さえ、“遅い”回転でセンター出しを行って下さい。



⑧ドリルチャックの交換時には、ドリルチャックを開けてチャックスクリューを外して下さい。交換後は再度チャックスクリューでドリルチャックを固定して下さい。



#### SP-1514AH ⚠ 取扱上のご注意

- ドリルビットはドリルチャックに正しく、しっかりと取り付けて下さい。
- ドリルビットは刃先の尖がった鋭いものを使用して下さい。
- 鉄・材木用など材質に合わせたドリルビットを使用して下さい。

- 振動を伴いますので、なるべく連続作業は避け、休憩しながら作業して下さい。
- 能力以上の作業は絶対にしないで下さい。負荷がかかり、手に反動を及ぼすことがあり危険です。